

2025(令和7)年度 全国学力・学習状況調査

逗子市の結果について

(1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

(2) 調査実施児童生徒数

逗子市立小学校第6学年児童	414名
逗子市立中学校第3学年生徒	325名



(3) 調査の内容

- ①教科に関する調査（小学校：国語、算数、理科 中学校：国語、数学、理科）

出題内容はそれぞれ次の（１）と（２）を一体的に問う。

- （１）身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等
- （２）知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等

②質問調査

- 調査する学年の児童生徒を対象とした、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

(4) 調査の方式

悉皆調査

中学校理科、質問調査はCBT調査（Computer Based Testing）

(5) 調査日

- 教科に関する調査（中学校理科以外）

2025年（令和7年）4月17日（木）

- 教科に関する調査（中学校理科）、生徒質問調査

2025年（令和7年）4月14日（月）～17日（木）のうち1日（学校ごとに指定）

- 児童質問調査

2025年（令和7年）4月18日（金）～30日（水）のうち1日（学校ごとに指定）

(6) 調査結果の分析にあたって留意したこと

本調査の結果から見てとれることとして、次のような点に留意して分析を行った。

- ①実施教科が「国語」「算数・数学」「理科」の3教科であり、学習指導要領のすべてを網羅するものではないことから、児童生徒が身につけるべき学力の特定一部であること。
- ②クロス集計については、相関関係が見られるかを分析したものであり、因果関係を示したものではないことや、質問調査の回答が特定の選択肢に偏っている項目の場合は正答率との相関関係が表れにくいこと。

(7) 調査結果(正答率)

(小学校)

教 科	逗子市正答率	神奈川県正答率	全国正答率
国 語	68%	66%	66.8%
算 数	61%	59%	58%
理 科	60%	57%	57.1%

(中学校)

教 科	逗子市正答率	神奈川県正答率	全国正答率
国 語	58%	55%	54.3%
数 学	52%	51%	48.3%

教 科	逗子市 平均IRTスコア	神奈川県 平均IRTスコア	全国 平均IRTスコア
理 科※	510	510	503

※中学校理科はCBT調査 (Computer Based Testing) により実施。その結果はIRTスコアとして示される。

※IRT：児童生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論。

項目反応理論 (Item Response Theory)

※IRT スコアとは、IRT に基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500 を基準にした得点で表すもの。各教科に CBT・IRT を導入する年の全国平均 500 を基準値とし、経年比較が可能な形で算出。

令和 7 年度全国学力・学習状況調査の結果の分析（小学校国語）

逗子市教育委員会

調査結果の概要及び教科の課題等

（○全国平均＋5 ポイント 程度良かった点や特徴ある点等 ●全国平均－5 ポイント程度課題や改善点等）

結果の概要	全体の正答率は 68%と、全国の平均正答率よりやや高い結果となった。 領域ごとの正答率では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」では、全国平均正答率より 3.7 ポイント下回る傾向が見られたが、「情報の扱い方に関する事項」に関しては 4.3 ポイント上回る傾向が見られた。 問題形式では、選択式は全国平均を 3.1 ポイント上回ったが短答式では 3 ポイント下回る傾向があった。記述式に関しては、昨年度は全国平均を下回ったが、今年度は多少上回る結果となった。
言葉の特徴や使い方に関する事項	○該当なし ●学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題、特に「あつい（暑い）」の書き取りでは、全国正答率を 5.9 ポイント下回っている。【2 四イ】
情報の扱い方に関する事項	○該当なし ●該当なし
我が国の言語文化に関する事項	○該当なし ●該当なし
話すこと・聞くこと	○該当なし ●該当なし
書くこと	○図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題では、全国正答率を 4.7 ポイント上回っている。【2 二】 ●該当なし
読むこと	○事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができるかどうかをみる問題では、全国正答率を 5.2 ポイント上回っている【3 二（2）】 ●該当なし
児童質問紙 国語に関連する質問 問 43～51	○国語の授業の内容はよく分かりますか。（＋6.1 ポイント）【46】

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果を受けての逗子市としての取り組み

逗子市教育委員会

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて逗子市として取り組むこと(小学校国語)

概要

全体的に、平均正答率をみると、授業の中で様々な指導内容を取り入れていることが伺える。

特に、読むことについては、昨年度同様3つの問題すべて全国正答率よりも高い結果となっている。児童質問調査の「(24) 読書は好きですか」の項目は、42.2と全国平均を5.8ポイント上回っていることから、読書に対する意識の高さが見受けられる。市内の図書館や校内の図書室の充実、学校生活への活用など、引き続き低中高学年と、系統的に学習指導と共に読書指導も積み重ねていけるとよい。

また、児童質問調査より、「(44) 国語の勉強は得意ですか」のポイントと「(45) 国語の勉強は好きですか」のポイントの差が全国は3.1に対して、本市では7.7となっており、これは、「得意と思っているが好きではない」傾向があると読み取れる。「国語の授業の内容はよく分かりますか」は全国平均より6.1ポイント上回っていることから鑑みると、国語の授業について内容は理解し得意としているが、好きだと感じられていない傾向があると察する。学ぶ意欲と共に学ぶ楽しさと感じられる様、引き続き授業計画や指導計画を学級のみによらず学年全体、そして学校のカリキュラムマネジメントの適切な実現に取り組む必要がある。

個別最適な学びと協働的な学びの双方が充実し、「なんとなくわかった」という曖昧な理解のままになっている児童の声を聞いたり、実態を把握したりすることで、より授業内容が充実してくる。誰一人取り残さない学校を目指し、児童一人ひとりが「学ぶ意欲」をもって楽しく学習に参加できるよう市として授業改善に取り組んでいく。

【言葉の特徴や使い方に関する事項】

漢字を書くことについては、当該学年の前の学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使おうとする習慣を身に付けるようにするとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うようにすることが重要である。相手の読みやすさや意味の通りやすさを考えて漢字を正しく書くことも求められる。第5学年及び第6学年は、漢字による熟語などの語句の使用が一層増加する時期であるため、漢字のもつ意味を考えて使う習慣が身に付くよう授業の中だけでなく、日常的な学級経営の中でも、教師が意図的に漢字の必要性を意味づけることが大切である。

【我が国の言語文化に関する事項】

時代の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くためには、自分たちが普段使っている言葉とは異なる言葉があることや、それぞれの世代には特有の言葉遣いがあることに気付き、自分たちの言葉への関心を深めることが重要である。児童が持つ知識を日常生活の中に意味づけたり価値づけたりするよう声かけをしていくことが大切である。

【話すこと・聞くこと】

自分の目的や意図に応じて、相手から聞きたいことを引き出すためには、集めた材料を分類したり関係付けたりして、どのようにインタビューを進めたらよいかを考えることが重要である。複数の質問を関連付けて聞くことで、聞きたいことを相手から引き出そうとすることは、話すことに関して大切なポイントとなる。また、聞くことにおいては、自分はどのような情報を求めているのか、聞いた内容をどのように

生かそうとしているのか、そのためにどういった情報を相手から引き出そうとしているのかなどを明確にして聞くことが重要であり、具体例を引き出せるよう質問の内容を考えながら聞くことがポイントとなってくる。さらには、話し手の考えと自分の考えとを比較して共通点や相違点を整理したり、共感した内容や納得した事例を取り上げたりして、自分の考えをまとめることも大切である。授業の中では話し合い活動等において、話し手と聞き手の両方の立場からアドバイスをしあいながら再構成したり高めあったりしていけるような場づくりが必要となってくる。

【書くこと】

自分の考えが伝わるように書くためには、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、図表やグラフを用いるなどして、書き表し方を工夫することが重要である。その際、書く目的や意図を明確にした上で、詳しく書く必要がある場合や簡単に書いた方が効果的である場合などを判断しながら書き表し方を工夫することが大切である。また、図表やグラフを用いる際には、自分にとっても考えを深めやすく、相手にとってもよく理解できるものとなるよう書き表し方を工夫することも大切である。「はじめ・中・おわり」のような形式的な枠を設けて書くことを指導するばかりでなく、自らまとまりを見つけられることも大切である。様々な観点から、教師が個別に声をかけることで児童が意識して学びに向かえるようにするとよい。

【読むこと】

文章全体の構成を捉えて要旨を把握し、目的に応じて、文章の中から必要な情報を見付けるためには、読む目的を明確にすることが大切である。また、文章の中から必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構成したりすることも重要である。その際、文章中に用いられている図表などが、文章のどの部分と結び付くのかを明らかにすることや、複数の資料を結び付けながら読むことが求められる。このようにして、文章の内容や構造を捉え、精査・解釈しながら考えたり理解したりすることは、自分の考えを形成することにもつながっていく。

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果の分析（小学校算数）

逗子市教育委員会

調査結果の概要及び教科の課題等

（○全国平均＋5ポイント程度良かった点や特徴ある点等 ●全国平均－5ポイント程度課題や改善点等）

結果の概要	本市の平均正答率は61%であり、全国、神奈川県の前年調査結果を上回る結果であった。学習指導要領の領域全てにおいても、全国、神奈川県の前年調査結果を上回っていた。その為、下記の領域ごとの分析については、ほとんどの領域で「○全国平均＋5ポイント程度良かった点や特徴ある点」が見られた。一方で「●全国平均－5ポイント程度課題や改善点」が見られた領域もあった。 評価の観点においても、知識・技能、思考・判断・表現ともに全国、神奈川県の前年調査結果を上回る結果であったが、知識・技能に比べ、思考・判断・表現は、全国、神奈川県と同じく平均正答率が下がる傾向が見られる。また、問題形式ごとに見ると、全ての形式において正答率が全国、神奈川県の前年調査結果を上回っていた。 一方で、無回答率については、問題形式を問わず多くの問題で全国、神奈川県の前年調査結果を上回る結果となっていた。
(算数) 数と計算	○示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算することができる（＋6.4ポイント）【1（4）】 ○小数の加法について、数の相対的な大きさを用いて、共通する単位を捉えることができる（＋5.9ポイント）【3（1）】 ○数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができる（＋8.0ポイント）【3（3）】 ●該当なし
(算数) 図形	○台形の意味や性質について理解している（＋6.3ポイント）【2（2）】 ○基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できる（＋5.8ポイント）【2（4）】 ●該当なし
(算数) 変化と関係	○「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができる（＋9.3ポイント）【4（4）】 ●該当なし
(算数) データの活用	○該当なし ●目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる（－5.9ポイント）【1（2）】
児童質問紙 算数に関する質問 問52～59 (算1・2)	○「算数の授業の内容はよく分かりますか」（＋6.2ポイント）【54】 ○「小数や分数の計算をするとき、工夫して計算しようとしていますか」（＋5.9ポイント）【59】 ○「解答時間は十分でしたか（算数）」（＋10.0ポイント）【算2】 ●該当なし

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果を受けての逗子市としての取り組み

逗子市教育委員会

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて逗子市として取り組むこと(小学校算数)

基礎的な知識・技能の問題についての正答率は68.2%であり全国平均より3ポイントほど高い。このことから、知識及び技能の習得が概ねできていることが分かる。思考・判断・表現の問題については、全国平均をわずかに上回るものの正答率は52.1%と知識・技能の問題より低い正答率となった。また、今回の調査では「都道府県Aのブロッコリーの出荷量が増えたかどうかを調べるために、適切なグラフを選び、出荷量の増減を判断し、そのわけを書く」【1(2)】の問題の正答率が25.1%と最も低かった。次いで、「 $3/4 + 2/3$ について、共通する単位分数と、 $3/4$ と $2/3$ が、共通する単位分数の幾つ分になるかを書く」【3(2)】の問題の正答率が26.3%と低かった。このことから、児童にとって記述で解答することに苦手意識があることが分かる。

質問紙調査では、「算数の勉強は好きですか」【53】、「算数の授業の内容はよくわかりますか」

【54】の回答は全国と比べると「1 当てはまる」と回答した割合がどちらも上回っているが、昨年度と比べると、どちらも下回っていることが分かる。また、「算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか」【58】の質問については、「1 当てはまる」と回答した割合が27.9%と低く、全国・神奈川県の前年度の割合も下回っていることが分かる。

このようなことから、自分の考えを言葉で説明できるようにするために、問題解決の過程や結果を言葉や数式、図などを使って説明するような場などを学習の中に取り入れていくことが大切である。また、思考力、判断力、表現力等を育成するために、具体的な生活場面における事象と算数の内容を関連付けて考えたり、問題の答えを導き出すだけでなく、「なぜそうなるのか」、「他の解き方はないのか」といった問いを立て、深く考える習慣をつけさせたりすることが大切である。

【数と計算】

*計算に関して成り立つ性質を見いだし、表現することができるようにする指導を充実させるためには、適用する数の範囲を広げていながら統合的・発展的に考え、共通点に着目させ、ほかの数でも成り立つかどうか確かめることができるようにすることが大切である。また、見いだした性質について、その意味を考え、どの数でも当てはまるようにまとめるよう問い返すなど、一般的に表現しようとする態度を育てる。

【図形】

*図形の学習においては、図形についての見方や感覚を豊かにすることが大切である。単なる知識として図形の性質を指導するだけでなく、具体物を操作しながら図形を構成したり分解したりする活動を通して、図形の性質や構成要素に着目して考察し、基本的な平面図形について理解できるようにする。

【変化と関係】

*伴って変わる二つの数量の間の関係を、言葉、図、数、表、式、グラフなどを用いて表し、変化の様子や対応の規則性を読み取ることができるようにすることが大切である。また、日常生活の中で、伴って変わる二つの数量関係が成り立つ場面を課題に設定するなど、日常生活での問題解決に

生かす活動を取り入れる。

【データの活用】

* 日常生活において、目的に応じて、必要な資料を収集し、グラフから資料の特徴や傾向を読み取ることができるようにするとともに、複数の資料の特徴や傾向を関連付け、一つの資料からは判断することができない事柄についても判断することができるようにすることが大切である。また、統計的な問題解決活動を行う場面を設定し、その結論をレポートやポスターなどにまとめて発表する活動を通して、表現力を伸ばすことも重要である。

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果の分析（小学校理科）

逗子市教育委員会

調査結果の概要及び教科の課題等

（○全国平均＋5ポイント程度良かった点や特徴ある点等 ●全国平均－5ポイント程度課題や改善点等）

結果の概要	全体の平均正答率は60%であり、県平均を3ポイント、全国平均を2.9ポイント上回る結果であった。学習指導要領の区分・領域全てにおいても県及び全国平均を上回った。 評価の観点においても、「知識・技能」、「思考・判断・表現」の両観点ともに、県及び全国平均を上回った。 また、「知識・技能」の正答率よりも「思考・判断・表現」の正答率の方が1.2ポイント高い結果であった。 しかしながら、問題形式別では、「記述式」の回答率が県平均より1.5ポイント、全国平均より3.2ポイント下回る結果であった。
「エネルギー」を柱とする領域	○電気の回路のつくり方について、実験の方法を発想し、表現することができる（＋4.7ポイント）【2（2）】 ○電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることの知識が身に付いている（＋5.8ポイント）【2（3）】 ●該当なし
「粒子」を柱とする領域	○水が氷に変わる温度を根拠に、オホーツク海の氷の面積が減少した理由を予想し、表現することができるかどうかを出題の趣旨とする問題では、全国平均を4.7ポイント上回る結果であった。【4（3）カ】 ●該当なし
「生命」を柱とする領域	○顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身に付いている（＋15.8ポイント）【3（2）】 ○発芽するために必要な条件について、実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現することができる（＋4.7ポイント）【3（3）】 ●ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身に付いている（－6.9ポイント）【3（1）】 ●レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することができる（－4.3ポイント）【3（4）】
「地球」を柱とする領域	○赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現することができる（＋7.2ポイント）【1（1）】 ●該当なし
児童質問紙 理科に関連する質問 問60～70	○理科の授業の内容はよく分かりますか（＋7.1ポイント）【62】 ○理科の授業では、観察や実験をよく行っていますか（＋5.3ポイント）【67】 ●理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか（－5.5ポイント）【63】

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果を受けての逗子市としての取り組み

逗子市教育委員会

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて逗子市として取り組むこと(小学校理科)

学習指導要領の区分・領域全てにおいても県及び全国平均を上回った。特に「粒子」を柱とする領域については、令和4年度は全国平均を3ポイント以上下回っていたが、今年度は全国平均を上回っているため、指導方法の改善が伺える。今後も継続した取り組みを進め、単元全体を見通して、児童が器具や機器を正しく扱うことだけでなく、操作の意味を捉えるように指導することで、観察、実験に関する技能の向上につなげるようにしたい。

しかしながら、記述式問題においては、令和4年度【小学校】理科2(4)では、「砂糖水を凍らせた物が水に沈んだという情報を、自分や他者の気づきを基に分析して、解釈し、適切な問題を見だし記述すること」に課題があると指摘している(正答率 31.4%)。本設問では、正答率が 25.6%であることから引き続き課題があると考えられる。

また、児童質問調査から「理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」に対し、全国平均を5ポイント以上下回る結果であった。理科の学習の有用性を子どもたちに実感させられるよう、「実生活における事象との関連を図った授業」の充実を目指していきたい。

【「エネルギー」を柱とする領域】

学習した知識を身の回りで見られる事物・現象と関係付けたり、様々な内容で習得した知識を整理したりして、物質の性質に関する理解を深めることが大切である。

指導に当たっては、例えば、第3学年「A(4)磁石の性質」ア(ア)において、磁石に引き付けられる物と引き付けられない物を調べる際に、第3学年「A(5)電気の通り道」ア(イ)での実験の結果を振り返りながら、物質の性質に着目して整理する学習活動が考えられる。

【「粒子」を柱とする領域】

既習の内容を根拠にして、自然の事物・現象について予想し、説明できるようにするためには、学習内容を他の学習や生活と関連付けることが大切である。

指導に当たっては、例えば、学習のまとめの際に、学習したことを自然の事物・現象や生活の場面に当てはめて理解を深めたり、役立っていることを捉えたりする活動を設定する。そして、学習したことと、自然の事物・現象との共通点を分類・整理したり、自然の事物・現象と習得した知識を関連付けて説明したりするような学習活動が考えられる。

【「生命」を柱とする領域】

理科では、科学的な言葉を使うことが重要である。

指導に当たっては、科学的な言葉を使って説明する場面を設定することが大切である。例えば、花のつくりを観察するときに、図鑑などと照らし合わせておしべやめしべの部位と名称を説明する学習活動、さらに、複数の種類の花を観察し、その共通点としておしべとめしべを見つける学習活動が考えられる。受粉について調べる実験を行う際には、受粉という言葉を使いながら説明するように指導すること、また、受粉という科学的な言葉を使って学習のまとめをすることが考えられる。

次に、自然の事物・現象に働きかけて得た事実に基づいて、問題を見いだすことができるようにするためには、事実を比較し、差異点や共通点を捉えることができるようにすることが重要である。

指導に当たっては、観察、実験の結果を比較して、差異点や共通点を基に、具体的な条件に着目した問題を見いだす場面を設定することが考えられる。例えば、「発芽するために必要な養分はどこからくるのだろうか」という問題を見だし、インゲンマメの種子が発芽した後の様子を観察する。発芽する前と後のインゲンマメの種子にヨウ素液をつけ、でんぷん反応を確認し、発芽した後の種子からはでんぷ

ん反応がないことから、「インゲンマメが成長するためには、肥料や日光が必要なのだろうか」という問題を見いだすことが考えられる。

【「地球」を柱とする領域】

観察、実験などの結果を基に、自分の考えを表現するためには、結果を整理し、具体的な数値を基に、より妥当な考えをつくりだし、表現することが重要である。

指導に当たっては、結果を基に考察する際に、表やグラフなどに整理する活動を設けることで、結果を比較したり、複数の結果から多面的に考えたりして、自分の考えを表現できるように指導することが大切である。また、根拠となる結果を具体的な数値などを用いて表現することで、より妥当な考えをつくりだすことができるように指導していくことも大切である。

令和 7 年度全国学力・学習状況調査の結果分析（小学校児童質問調査）

逗子市教育委員会

特徴的なことや課題と考えられること等

- 「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1 日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）」の質問に「2 時間以上」「1 時間以上、2 時間より少ない」と回答していた児童の割合が合わせて 21.5% で、全国・神奈川県の高割合。●一方で、「全くしない」と答えた割合は 29.1% と選択肢の中で一番多い。
- 「あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか（雑誌、新聞、教科書は除く）」の質問に「101～200 冊」「201～500 冊」「501 冊以上」と回答した児童の割合が、全国・神奈川県の高割合。
- 読書時間と各教科の正答率をクロス集計した結果、1 日当たり 1 時間以上読書をする児童は、全くしない児童に比べ、国語 10.1 ポイント、算数 10.4 ポイント、理科 9.7 ポイント正答率が高い。
- 「これまでの生活の中で、自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがありましたか」の質問に、「よくしていた」「ときどきしていた」と回答した児童の割合が合わせて 85.9% で、全国・神奈川県の高割合。
- 自然の中で遊んだり観察をしたりする経験と各教科の正答率をクロス集計した結果、よくしていた児童は全くしていない児童に比べ、正答率は 25～30 ポイント程度高い。
- 「学校に行くのは楽しいと思いますか」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」という質問では、「当てはまらない」「全くない」と回答している児童が一部存在する。

令和 7 年度全国学力・学習状況調査の結果を受けての学校としての取組

逗子市教育委員会

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて学校として取り組むこと（小学校）

- 今後も学校図書館指導員や司書教諭、市立図書館等と連携しながら学校図書館の充実を図るとともに、担任やボランティアによる読み聞かせ、委員会活動による読書週間等、各学校の好事例を共有する担当者会を継続し、読書活動を推進する。
- 市内に海・川・森を有し、自然に恵まれた逗子市ならではの地形を生かし、児童が自然の中で活動や体験に取り組む機会を、これからも大切にしていく。
- 各学校において全ての児童が安心・安全に過ごせるよう、仲間づくりや居場所づくりを進める。集団生活の中であっても、個を見守り寄り添う発達支持的生徒指導を徹底するとともに、各学校で行っている生活アンケートや相談窓口の周知など、児童が悩みを打ち明けやすい体制を維持しつつ、支援コーディネーターやスクールカウンセラーとの連携など組織的な対応を心掛けるなど、支援教育を推進する。

令和 7 年度全国学力・学習状況調査の結果の分析（中学校国語）

逗子市教育委員会

調査結果の概要及び教科の課題等

（○全国平均＋5 ポイント程度良かった点や特徴ある点等 ●全国平均－5 ポイント程度課題や改善点等）

結果の概要	全体の正答率は 58% と、全国の平均正答率を上回る結果となった。 領域ごとの正答率では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」に関する平均正答率が全国を 9 ポイント上回った。 問題形式では、記述式が 5.4 ポイント上回る結果となったが、短答式については 3.1 ポイント下回る結果となった。 なお、過去 3 年間の同調査結果においては、本市の平均正答率は全国、神奈川県の前年を平均正答率を上回っている。また、問題形式ごとに見ると、過去 3 年間の記述式の平均正答率は上回っている。今年度も同じ傾向と言える。
言葉の特徴や使い方に関する事項	○文脈に即して漢字を正しく使うことができるかどうかをみる問題では全国平均正答率を 10.6 ポイント上回っている。【1ー】 ○事象や行為を表す語彙について理解しているかどうかをみる問題では、全国平均正答率を 7.3 ポイント上回っている。 ●該当なし
情報の扱い方に関する事項	○該当なし ●該当なし
我が国の言語文化に関する事項	○該当なし ●該当なし
話すこと 聞くこと	○自分の考えが明確になるように、論理の展開に注意して、話の構成を工夫することができるかどうかをみる問題では、全国平均を 5.1 ポイント上回っている。【2三】 ●該当なし
書くこと	○書く内容の中心が明確になるように、内容のまとまりを意識して文章の構成や展開を考えることができるかどうかをみる問題では、全国平均を 8.4 ポイント上回っている。【1三】 ●読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる問題では全国平均を 9.3 ポイント下回っている。【4ー】

読むこと	○表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる問題では、全国平均を 5.5 ポイント上回っている。【3一】 ●該当なし
生徒質問紙 国語に関連する質問 問 43～51	○国語の勉強は好きですか。（+6.4 ポイント）【44】

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果を受けての逗子市としての取り組み

逗子市教育委員会

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて逗子市として取り組むこと（中学校国語）

概要

全体的に、全国平均を上回る傾向が続いていて、授業の中で様々な指導内容を取り入れていることが伺える。特に質問事項の「1.2年生の時に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えが上手く伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか」にたいして全国平均を 11.6 ポイントも上回る結果となった。1年生からの授業の積み重ねは、学校全体でカリキュラムマネジメントを適切に実現し、自分の考えを伝えるべく学びを継続している成果であり、今後も継続的に行っていききたい取組である。しかしながら、「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」については、全国平均を 10.3 ポイント下回る結果となった。考えを述べたり相手に伝わるよう工夫したりすることは、国語科だけでなく、他教科にわたりまた、日常生活の中でも横断的に取り入れていく事が大切となってくる。

今回の調査においては、学習指導の改善を視野に入れ結果を踏まえて授業の再構築のきっかけになるとよい。個別最適な学びと協働的な学びの双方の充実には、指導計画に基づいた学習指導の改善が必要であり、一人ひとりの学習理解度を把握し、適切なフィードバックや声掛けをすることで、学びの質を高めることが必要になってくる。誰一人取り残さない学校を目指し、この見取りをより充実させ、「わからない」ままの生徒には適切な指導が積み重ねられるよう市として取り組んでいく。

【言葉の特徴や使い方に関する事項】

実用的な文章を書く言語活動を設定する際には、他教科等の学習や学校の教育活動全体との関連を図り、実際に書いて伝えたり、読み手の反応を受け取ったりすることができるよう工夫することが考えられる。行事等を案内する文章には、行事名、日時、場所、内容などのほか、参加してほしいといったお願いなど、必要な情報を漏れなく書く必要がある。その際、生徒が、相手や目的に応じて伝えるべき事柄を選択したり再構成したりして、簡潔に分かりやすく書くことができるよう指導することが大切である。

【話すこと、聞くこと】

「A話すこと・聞くこと」の学習においては、「話題の設定、情報の収集、内容の検討」、「構成の検

討、考えの形成（話すこと）」、「表現、共有（話すこと）」、「構造と内容の把握、精査・解釈、考えの形成、共有（聞くこと）」、「話合いの進め方の検討、考えの形成、共有（話し合うこと）」に関する各指導事項が示す資質・能力を身に付けることができるように、意図的・計画的に指導を重ねることが大切である。2（一）の正答率が全国的にも低くなっており、今後の指導の一つとして、自分本位ではなく、読み手の立場に立って文章を整える力をつける必要がある。

【書くこと】

「B書くこと」の学習においては、「題材の設定、情報の収集、内容の検討」、「構成の検討」、「考えの形成、記述」、「推敲」、「共有」に関する各指導事項が示す資質・能力を身に付けることができるように、意図的・計画的に指導を重ねることが大切である。また、実用的な文章を書く言語活動を設定する際には、他教科等の学習や学校の教育活動全体との関連を図り、実際に書いて伝えたり、読み手の反応を受け取ったりすることができるよう工夫することが考えられる。

【読むこと】

文学的な文章を読むためには、言葉を手掛かりにしながら文脈をたどり、観点を定めて読むことが必要であり、そのことによって深い理解や感動が得られる。また、文章全体や部分における構成や展開を把握した上で、なぜそのような構成や展開になっているのか、そのことがどのような効果につながるのかなど、自分なりの意味付けをすることも重要である。

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果の分析（中学校数学）

逗子市教育委員会

調査結果の概要及び教科の課題等

（○全国平均＋5ポイント程度良かった点や特徴ある点等 ●全国平均－5ポイント程度課題や改善点等）

結果の概要	本市の平均正答率は52%であり、全国の平均正答率を1.7ポイント上回る結果であった。学習指導要領の4領域のどの領域においても、全国、神奈川県の前平均正答率を上回る結果であった。 評価の観点においても、知識・技能、思考・判断・表現ともに全国、神奈川県の前平均正答率を上回る結果であったが、知識・技能に比べ、思考・判断・表現は、全国、神奈川県の前傾向と同じく平均正答率が下がることに課題が見られる。 問題形式毎に見ても、全ての形式において正答率が全国・神奈川県の前平均を上回った。中でも、選択式は58.6%と全国平均を4.6ポイント上回った。
(数学) 数と式	○「数と式」領域の全ての問題において、全国平均を上回った。 ○素数の意味を理解している（＋8.3ポイント）【1】 ○数量を文字を用いた式で表すことができる（＋5.2ポイント）【2】 ○式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができる（＋5.2ポイント）【6（2）】 ●該当なし
(数学) 図形	○「図形」領域の全ての問題において、全国平均を上回った。 ○統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善することができる（＋6.6ポイント）【9（2）】 ●該当なし
(数学) 関数	○「関数」領域の全ての問題において、全国平均を上回った。 ●該当なし
(数学) データの活用	○該当なし ●該当なし
生徒質問紙 算数に関する質問 問52～59 数（1・2）	●【52】～【59】多くの質問で肯定的に回答した割合が、全国の割合を下回っている。 ●数学の授業の内容はよく分かりますか（－5.7ポイント）【54】 ●数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか（－11.1ポイント）【55】 ●数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できていますか（－6.5ポイント）【56】 ●数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか（－5.6ポイント）【58】

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果を受けての逗子市としての取り組み

逗子市教育委員会

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて逗子市として取り組むこと(中学校数学)

令和7年度調査の本市の平均正答率は52%であり、全国の平均正答率を3.7ポイント上回る結果であった。学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式の分類から見ても、全てにおいて全国、神奈川の平均正答率を上回る結果であった。また、「正答数0問」「正答数1問」「正答数2問」の生徒も一定数はいるもののその割合も全国、神奈川県との割合と比較するとすべて下回っている。誰一人取り残さない学びの充実を図る為、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図ってきたことの一定の成果が現れてきていると考えられるので、今後も継続して取り組んでいく。

学習指導要領の領域ごとに分析をすると、「A 数と式」「B 図形」については、全国平均+5ポイント程度の良かった点や特徴ある点が見られるが、「C 関数」「D データの活用」については、そのような点が見られない。また、無解答率を分析すると、「ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができる」【9(3)】の問題が34.3%と高く、全国は無回答率と比べても3ポイントほど上回っている。

質問紙に目を向けると、「1当てはまる」の割合がすべて全国割合を下回っていた。平均正答率や学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式の分類のすべてで全国平均正答率を上回っているのに、「数学の授業の内容はよく分かりますか」【54】は、全国の割合と比べて5.7ポイント低く、「数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できていますか」【56】は、6.5ポイントも低い。このことは、「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」【55】(全国比較-11.1ポイント)にも表れているように、数学の学習が日常生活と繋げて考えられていないことが分かった。

これからも基礎的な知識及び技能の習得を図る学習をより一層充実させ、思考力、判断力、表現力等を育成していきたい。加えて、日常の事象を数理的に捉え、数学を活用して論理的に考察する力を身に付けられるように、日常生活を意識した問題を考えるなど学ぶ意欲を高めたり、数学的に考えることのよさ、数学的な処理のよさ、数学の実用性などを実感したりすることができるよう授業改善を図っていきたい。

【数と式】

- * 文字を用いた式の中の文字のもつ意味について理解を図るために、文字にいろいろな数を代入することで変化する式の値の様子から式の意味を考察するなど、具体的な数を用いて表現し文字のもつ意味について考える。
- * 事柄が一般的に成り立つ理由を、筋道を立てて説明できるようにするために、成り立つと予想した事柄について、文字式や言葉を用いて解決するための見通しをもち、その見通しを基に根拠を明らかにして説明する活動を充実させる。

【図形】

- *図形の学習においては、実際に図に表したり、作図したりするだけでなく、論理的に考察するとともに、考察したことについて筋道立てて説明することが大切である。また、その際には、自分が納得できるとともに他人を説得できると実感できるよう、生徒が見いだしたことや工夫したことなどを、数学的な表現を用いて論理的に説明し伝え合う活動を充実させる。

【関数】

- *様々な問題を数学的に活用して解決できるようにするために、問題解決の方法に焦点を当て、「用いるもの」と「用い方」を明確にして問題解決の方法を説明する活動を充実させることが大切である。その際に、問題解決のために表した表、式、グラフをどのように用いればよいか説明し合う場面を設定し、検討する活動を充実させる。
- *日常生活や社会の事象などの具体的な場面に関数を活用することができるよう、関数を用いて具体的な事象を捉え考察するとともに、その考察の過程や結果を表、式、グラフを用いて説明する活動を充実させる。

【データの活用】

- *代表値を求めたりデータの分布の様子を読み取ったりする場面を設定し、その傾向を捉えて、データに基づいた判断や主張を批判的に考察することを通して、よりよい解決や結論を見いだすことができるようにする。
- *日常生活や社会における不確定な事象に関する問題に対して、目的に応じてデータを収集し、ヒストグラムなどに整理し、そのデータの傾向を読み取り、それに基づいて判断し統計的に問題解決する活動を充実させる。

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果の分析（中学校理科）

逗子市教育委員会

（○全国平均＋5ポイント程度良かった点や特徴ある点等 ●全国平均－5ポイント程度課題や改善点等）

結果の概要	全体の平均 IRT スコアは 510 であり、神奈川県と同水準、全国平均を 7 ポイント上回った。標準偏差は 108.7 であり、県（124.3）や全国（124.0）に比べ小さい。 IRT バンド1の生徒の割合が全国の割合よりも 2.4 ポイント下回っている。 ※ IRT スコアとは、IRT に基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500 を基準にした得点で表すもの。各教科に CBT・IRT を導入する年の全国平均 500 を基準値とし、経年比較が可能な形で算出。 ※ IRT バンドとは、IRT スコアを 1～5 の 5 段階に区切ったもので、平均バンドは 3、5 が最も高いバンドとなる。
「エネルギー」を柱とする領域	○電熱線で水を温める学習場面において、回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識及び技能が身に付いている（+5.8ポイント）【1（1）】 ○ストローの太さと音の高低に関する情報を収集してまとめを行う学習活動の場面で、収集する資料や情報の信頼性についての知識及び技能が身に付いている（+4.0ポイント）【2（2）】 ○身近な電化製品の電気回路について探究する学習場面において、回路に抵抗がついている理由を問うことで、抵抗に関する知識が概念として身に付いている（+9.0ポイント）【3（2）】 ●該当なし
「粒子」を柱とする領域	○身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定できる（+4.1ポイント）【1（2）】 ○化学変化に関する知識及び技能を活用して、実験の結果を分析して解釈し、化学変化を原子や分子のモデルで表すことができる（+7.4ポイント）【5（2）】 ●塩素の元素記号を問うことで、元素を記号で表すことに関する知識及び技能が身に付いている（-5.6ポイント）【1（5）】 ●加熱を伴う実験における実験器具の操作等に関する技能が身に付いている（-4.0ポイント）【5（1）】
「生命」を柱とする領域	○スケッチから分かることを問うことで、スケッチに関する知識及び技能が身に付いている（+4.4ポイント）【6（1）】 ●該当なし
「地球」を柱とする領域	○露頭のどの位置から水が染み出るかを観察する場面において、小学校で学習した知識を基に、地層に関する知識及び技能を関連付けて、地層を構成する粒の大きさとすき間の大きさに着目して分析して解釈できる（+4.9ポイント）【1（3）】 ○地域の言い伝えを科学的に探究する学習場面において、大地の変化と、地層

	の様子やその構成物に関する知識及び技能を関連付けて、地層の重なり方や広がり方を推定できる(+10.8ポイント)【8(1)】 ○気圧に関する身近な事象を問うことで、気圧の知識が概念として身に付いている(+19.4ポイント)【9(2)】 ●気圧について科学的に探究する場面において、状態変化や圧力に関する知識及び技能を基に、予想が反映された振り返りについて問うことで、探究の過程の見通しについて分析して解釈できる(-7.9ポイント)【9(1)】
児童質問紙 理科に関連する質問 問60～問70	○理科の授業では、観察や実験をよく行っていますか(+4.2ポイント)【68】 ●理科の勉強は得意ですか(-4.7ポイント)【60】 ●理科の勉強は好きですか(-5.3ポイント)【61】 ●理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか(-6.9ポイント)【63】 ●理科の授業で、課題について観察や実験をして調べていく中で、自分や友達の学びが深まったか、あるいは、新たに調べたいことが見つかったか、振り返っていますか(-4.0ポイント)【70】

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果を受けての逗子市としての取り組み

逗子市教育委員会

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて逗子市として取り組むこと（中学校理科）

IRT バンド分布を見ると、バンド1に該当する生徒の割合は全国平均の半分以上である。また生徒質問紙「理科の授業では、観察や実験をよく行っていますか」に対する結果も全国平均を上回っている結果より、体験的な活動の充実がバンド1に該当する生徒への手立てとなっている可能性がある。今後も継続するとともに、バンド2・3に該当する生徒の課題を丁寧に把握し対応していくことで、さらなる学力向上が期待できる。

一方で、記述式の【2(1)】「考察をより確かなものにするために必要な実験を選び、その結果を記述する問題」の正答率は14.2%で、全国平均と同程度ではあるものの課題が残っている。特に、考察を確かなものにするための適切な実験計画や、その内容を文章で表現する力に課題が見られる。したがって、言語活動を充実させながら、科学的探究の見通しをもって考察の妥当性を高められるような授業づくりが必要である。

また、生徒質問調査から「理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」に対し、全国平均を下回る結果であった。小学校の調査同様、理科の学習でどのような力が育まれ、子ども達の将来にどのような影響があるのかを丁寧に伝えていくことが必要であると考え。

【「エネルギー」を柱とする領域】

理科では、結果をまとめ、関係性を見いだすために表やグラフなどを用いて視覚化を行うことが大切である。指導に当たっては、測定値の関係性を見いだすために表やグラフなどを用いて表すことが考えられる。表で示すのか、グラフで示すのか、両方用いて示すのかなど、どの方法で表現すれば良いかを

議論することも大切である。また、結果から関係性を見いだすための時間を十分に確保することも大切である。その際、表計算ソフトなどを利用することも考えられるが、独立変数や従属変数、単位などを自分自身で考え、手書きでグラフや表を作成することも大切な作業であると考ええる。

【「粒子」を柱とする領域】

物質やその変化を表現したり理解したりする上で、物質を元素記号で表すことができることを理解し、元素記号の表し方についての知識及び技能を身に付けることは大切である。

指導に当たっては、スポーツ飲料や洗剤等の成分表示の中に元素記号が記載されていることがあることに気付かせ、身の回りの生活の中で元素記号が使われていることを実感させる学習場面を設定することが考えられる。その際、物質やその変化を記述したり理解したりするために元素記号を用いることは有効であることに気付くように授業デザインをすることが大切である。

【「生命」を柱とする領域】

観察した生物の共通点と、生命を維持する呼吸の知識とを関連付けて、生命を維持する働きに関する知識を概念として身に付けることは大切である。

指導に当たっては、「呼吸を行う」、「光合成を行う」などの生物の共通点や相違点を挙げ、生命を維持する働きに関する知識を基に、それらの特徴からいろいろな生物について考察する学習場面を設定することが考えられる。その際、直接観察することが難しい生物については、博物館等で公開している動画等を1人1台端末で視聴することも考えられる。

【「地球」を柱とする領域】

理科では、観察、実験の結果を分析して解釈したり、予想や仮説を設定したりして、科学的な探究の方法を基に見通しをもって探究を進めていくことが大切である。

指導に当たっては、自己の考えがどのように変容したか等に着目し、振り返りをする学習場面を設定することが考えられる。その際、探究の各過程で自己の考えを表現し、必要に応じて多様な視点で自己の考えについて振り返るようにすることが重要である。また、振り返りをグループまたはクラス全体で共有することで、自己の振り返りが深まることが考えられる。

令和 7 年度全国学力・学習状況調査の結果分析（中学校生徒質問調査）

逗子市教育委員会

特徴的なことや課題と考えられること等

- 「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」の質問に「3時間以上」「2時間以上、3時間より少ない」と回答していた生徒の割合が合わせて43.0%で、全国の割合より10ポイント以上高い。
- 「1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」の質問に「ほぼ毎日（1日に複数の授業で活用）」「ほぼ毎日（1日に1回くらいの授業）」と回答していた生徒の割合が合わせて81.7%で、全国の割合より30ポイント近く高く、神奈川県との割合より20ポイント以上高い。
- 「あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができますか」との質問に「とてもそう思う」「そう思う」と回答していた生徒の割合が合わせて83.8%で、全国・神奈川県の割合より高い。
- 「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」という質問と各教科の正答率をクロス集計した結果、「当てはまる」と回答した生徒は「当てはまらない」と回答した生徒に比べ、国語14.4ポイント、算数13.1ポイント、理科IRTスコアは57ポイント高い。
- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問に、「当てはまる」と回答した生徒の割合が67.4%で、全国・神奈川県の割合より低い。

令和 7 年度全国学力・学習状況調査の結果を受けての学校としての取組

逗子市教育委員会

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて学校として取り組むこと（中学校）

- 学校は、個性の異なる一人ひとりが集まり、ともに生きる場であるからこそ、それぞれの感じ方・考え方の違いがあることを知ることができる。様々な違いを知ることは自分の考えを広げ、深めることにつながる。さらには、そのような集団の最適解をみんなで工夫しながら探る過程は、より豊かな社会の形成者としての生きる力を育む大切な学びとなる。様々な違いを認め合い、話し合い、ともに支え合うような親和的な学級づくり・学校づくりをこれからも推進し、「いじめはどんな理由があっても許されない」という認識の徹底を図る。
- 日々の授業の中で、ICT活用はほぼ定着したと見ることができる。今後は「どのように使用するか」、その活用の仕方にいっそう注目していく必要がある。理解の不十分な点について補うような個別最適な学びと、互いの考えを比較したり整理したりしながら、思考が深まっていくような協働的な学びを、どちらも実現できるようICT活用の推進を継続していく。さらに、互いの考えを比べたり議論したりすることで、自分の考えが深まったり新たな考え方に気付いたりすることが「楽しい」と感じられるよう、授業づくりを今後も研究していく。